

車いすタクシー 乗車拒否相次ぐ

UDタクシー 高齢者や子ども、障害者も利用しやすいよう設計されたユニバーサルデザインのタクシーで、UDは英語の Universal Designの頭文字。事前に予約が必要な福祉タクシーとは異なり、流し営業で気軽に利用されることを想定している。



車いすに乗ったまま利用できるUDタクシー＝28日、札幌市

車いすに乗ったまま利用できるユニバーサルデザイン（UD）タクシーを巡り、運転手が備え付けの乗降用スロープの使い方を知らず、車いす利用者の乗車を拒否する事例が相次いでいるとして、国土交通省が全国のタクシー事業者に改善を求める通達を出したことが30日、分かった。研修で使用方法を習得することなどを求めた。

道内でも

内は8月末現在、797台となっている。

UDタクシーはトヨタと日産自動車が生産しており、このうちジャパンタクシーでは、車体側面のスライドドアを開け、後部座席をはね上げて車いすのスペースを確保する。

国土省には昨秋以降、車いす利用者から「乗車を拒否された」「乗車に20～30分かかった」といった声が寄せられ、ほとんどの場合、運転手がスロープの使用方法を知らないことが原因だった。

この問題を巡っては、車いす利用者らが20日、UDタクシー「ジャパンタクシー」を製造するトヨタ自動車に、車の構造にも問題があるとして、改善を求める約1万2千人分の署名を提出した。

国はUDタクシー導入に補助

国土省、改善求め通達 スロープ使用方法知らず

金を出し、2020年度までに福祉タクシーを含め2万8千台の普及を目指す。現状では、全国で1万5千台を超え、うち道

荷台などに収納されている折り畳み式スロープを展開してドア開口部に設置し、車いすを乗せ

上川管内東川町の障害当事者団体代表、佐藤祐（すけ）さん（38）は数カ月前、車いすでUDタクシ

こうした状況を受け、国土省は今年8日、乗車拒否を違法とする道交法の順守や、障害者差別解消法の理解を深めるよう通達。設備操作の研修の定期的な実施や、UDタクシーを指定できる配車サービスの充実などを求めた。